北大医学部 保健学科 検査技術科学 2年前期 医療情報科学

28年度講義予定

6月 22日 <u>VBA演習</u> <u>BMLxls</u>

6月 29日 総復習

7月 6日 試験

VBA (Visual BASIC for Applications)で、 Body Mass Index 判定プログラムを作る。

ユーザーフォームを用いた プログラムの作成

Graphic User Interface (GUI)の利用法

構造化プログラムの作成

複雑なプログラムを、 関数に分割して作る方法

Body Mass Index 🔀
Body Mass Index
Height (cm) = 173
Weight (kg) = 73
Calc BMI
BMI = 24.39
ちょうど良い
肥満度 10.87 %
Should be 65.7 kg
Decrease 7.3 kg
End

VBA(Visual BASIC for Applications)のテキストは、 たくさんあります。興味があればさらに勉強を進めて下さい。





Excel でマクロを使えるようにするためには セキュリティの変更作業が必要。







マクロを有効にする設定をしたら、

Excel をいちど 終了させて、 再度 Excel を起動する。

これで、マクロを使えるようになる。

メニューバーの空白領域を右クリックすると Visual Basicメニューバー表示を選択する リストがでるので、Visual Basic をチェックする。

🔀 Microsoft Excel – Book1

8	ファイル(E) 編:	集(E) 表示:	☑ 挿入ወ	뒫	≩式(0) ツール(①)	データ(<u>D</u>)	ゥ
D (i 🖓 🔚 🚑	1 🖨 🖪 🤅	۵ 🎖 💛	ê	. • 🚿	8 I KO + CH	- 🍓 Σ	+
•	● セキュリティ	- 👌 🛠 🛓	£ 🛷 🗸	[
MSI	Pゴシック	- 11 -	В <i>I</i> <u>U</u>			康华 争式設定		8
	A1	-	fx	_	· ·	┏᠇┉ᡘᡄ ╓╷┿┉┽╏┍┙╲╵┟	2141	
	A	В	С		<i></i>	Vieual Basic		H
1	B			+		Web		╉
3						~~~ ~~~		t
a						,,,		

これをクリックすると VBA が出る。







マクロのアイコンをクリック。

マクロの名前を入力、選択するダイアログが表示される。

マクロ	2 x
マクロ名(<u>M</u>):	実行(R) ステップ イン(S)
ここにマクロの名前を入力。	編集(E) 作成(C)
例として、test と入力。	削除(D) オプション(O)
マクロの保存先(<u>A</u>): 開いているすべてのブック ▼ 説明	
	キャンセル

マクロ の名前を入力すると、

作成ボタンが選択可能になるので、クリックする。

マクロ		? ×	J
マクロ名(<u>M</u>):			
test	<u> </u>	実行(R)	
	*	ステップ イン(S)	
		[編集(E)]	
		(作成(<u>C</u>)	
		オプション(0)	
	Ŧ		
マクロの保存先(A): 開いているすべてのブック	•		
		キャンセル	

_ _ ユーザーフォーム を選択 HIJ 入



<u>ーフォームと、ツールボックスが出現。</u> プロジェクトウィンドウにも、 UserForm 1 が追加される。 🚰 Microsoft Visual Basic - Book1 挿入① 書式(Q) デバッグ(D) ツール(T) アドイン(<u>A</u>) ウィンドウ(₩) ヘルプ(Η) ファイル(E) 編集(E) 表示(\) 実行(R) 🕨 🛯 🔜 🔛 😻 🖆 🧏 📿 × 🋅 • 🔚 👗 🖻 💼 🛤 🗠 어 🍓 🖸 🔁 📴 🕶 🗟 🗸 🚍 🖌 100% ブロジェクト - VBAProject X 👪 Book1 - UserForm1 (UserForm) . -8 AcrobatPDFMaker (PDFMaker.xla) ールボックフ UserForm1 ė-86. VBAProject (Book1) コントロール 🖻 📇 Microsoft Excel Objects Image: The set and the set A abl 🖬 🖽 (E) Sheet2 (Sheet2) 🖽 Sheet3 (Sheet3) ThisWorkbook ŧ la a 白… 🦰 フォーム . 🖬 UserForm1 ブロパティ – UserForm1 × UserForm1 UserForm -

全体

項目別

ツールボックスが表示されない場合は、フォーム上を左クリックまたは、表示 – ツールボックスを選択、



プロパティウィンドウで UserForm1 を選択して、 (プロジェクトウィンドウで UserForm1をクリック) BackColor - パレット を開くと、フォームの色が選択できる。



ツールボックスの ラベル(Aの文字が記されている)を左クリックして、



マウスの左ボタンを押したままフォームの中に移動させて(ドラッグ)、 左ボタンを離す(ドロップ)。 この操作を Drag&Drop という。

🗱 Book1 – UserForm1 (UserForm)

UserForm1	ツールボックス 🛛
	コントロール
	► A abl 📰 🖽
フォームにラベルが付く	

プロパティで Label 1 を選択して、Font の文字を左クリックすると、 Label 1 に使う文字のフォント、スタイル、サイズを選択できる。

ブロパティ - Label1 🛛 🛛 🔀		-8 E	Book1 -	User	Form1	(Use	rFor	m)			
Label1 Label	.										
全体 項目別		Us	er For r	n1							×
(オブジェクト名)	Label1 🗾 🗾										
Accelerator											
AutoSize	False		ÖLaber	I							
BackColor	&HOOEOEOE0&		, Örerer	¢¢ ⊡ ¢¢¢	n in the second s		· · · ·	•••	•••	• • • • • • • •	
BackStyle	1 – fmBackStyleOpaque								· · ·		
BorderColor	&H8000006&										: : : : :
BorderStyle	0 – fmBorderStyleNone										
Caption	Label1										
ControlTipText				· · · · · ·					· · ·	 	
Enabled	True										· · · · ·
Font	MS UI Gothic										
Forecolor	🛛 &H80000012& 🛛 🔽	: : :									

このボタンをクリック。 好きな字体を選択

2	クロパティー Lab	el1	×
Γ	Label1 Label		-
ĺ	全体 項目別	1	
	(オブジェクト名)	Label1	~
	Accelerator		
	AutoSize	False	
	BackColor	&H00E0E0&	
	BackStyle	1 – fmBackStyleOpaque	
	BorderColor	&H8000006&	
	BorderStyle	0 - fmBorderStyleNone	
	Caption	Label1	
	ControlTipText		
	Enabled	True	
	Font	MS UI Gothic	
1	ForeColor	& H90000128	



プロパティで Label 1 を選択して、Caption の文字を左クリックすると、 その右側の欄に、Label 1 に表示する文字を入力できる。



ラベル Label: フォーム上に文字を書く道具(ツール、コントロール) キャプション Caption:見出し、表題 プロパティ Property:個々のツールの属性、特性、機能

各ツールには、いろいろなプロパティが用意されている。 適当に選択して気に入ったプロパティを探してください。

クロパティー Lab	el1 🔀				
Label1 Label					
全1平 項目別					
はブジェクト名)	Label1				
Accelerator					
AutoSize	True				
BackColor	🔲 &HOOEOEOE0&				
BackStyle	0 – fmBackStyleTransparent				
BorderColor	🔳 &H8000006&				
BorderStyle	0 - fmBorderStyleNone				
Caption	Body Mass Index				
ControlTipText					
Enabled	True				
Font	Times New Roman				
ForeColor	■ &H80000012&				
Height	30				
HelpContextID	0				
Left	24				
MouseIcon	ゆい (1)				
MousePointer	0 - fmMousePointerDefault				
Picture	<u> </u>				
PicturePosition	7 - fmPicturePositionAboveCe				
SpecialEffect	<u>2 - fmSpecialEffectSunker</u>				
	U - tmSpecialEffectFlat				
TabStop	2 - fmSpecialEffectSunken				
lag 🗸 🔻	3 - fmSpecialEffectEtched				
TextAlign	<u>6 - fmSpecialEffectBump</u>				



同様の操作で、Labelを2個フォームに追加して (Label 2, Label 3 を UserForm 1 の上に配置) caption を Height (cm) = , Weight (kg) = と入力。 (日本語でもOK)。

フロパティ - Label3 🛛 🗙	🖩 Book1 – UserForm1 (UserForm)	
Label3 Label 📃		
全体 項目別	UserForm1	ツールボックス 🛛 🛛
はブジェクト名) Label3		コントロール
Accelerator	Dady Maga Inday	
AutoSize False	DOUY IVIASS HIVEX	🕨 🗛 abl 🧱 🖽 📘
BackColor 🗌 &H00E0E0E0&	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
BackStyle 1 - fmBackStyleOpaque		⋈┍╴╒└╵┙╵
BorderColor 🛛 &H80000006&	Hoight (om) =	P ≞ ∎ 🔊
BorderStyle 0 - fmBorderStyleNone	meigni (cm) –	
Caption Weight (kg) =		
Control Lip Lext		
Enabled True	🛛 🖾 Weight (kg) = 👘 🖉	
Font Times New Roman		
ForeColor 🗧 &H00FF0000&		
Height 30		
HelpContextID_0		

ツールボックスからテキストボックス(ab | と記されたツール) を、フォームに drag & drop。 位置とサイズを調節して 身長と体重を入力する場所に 2個 配置する。 テキストボックスは数や文字を入力したり表示するツール。



ツールボックスからコマンドボタン(四角で表示されたツール) を、フォームに drag & drop。 位置とサイズを調節して適当な場所に 配置する。 コマンドボタンは、プログラムを実行させるツール。

ロパティー UserForm	กไ	X	BMLxls - UserForm1 (UserForm)	
JserForm1 UserForm	n	J .		
全体 項目別			UserForm1	ツールボックス 🔀
はブジェクト名) BackColor BorderColor BorderStyle	UserForm1 &H00E0E0E0& &H80000012& 0 - fmBorderStyleNo UserForm1		Body Mass Index	コントロール ▶ A abl 語 ⊞ ▼ ⓒ ≓ ¨¨ ⊔
Caption Cycle DrawBuffer Enabled	UserFormi 0 - fmCycleAllForm: 32000 True		Height (cm) =	 二 豊 豊 風 スンドボタン
Font ForeColor Height HelpContextID	Times New Roman & H80000012& 289.5	_	weight (kg) =	
KeepScrollBarsVisible Left	0 0 - fmScrollBarsNor 0 751 X		CommandButton1	

Command Button1のプロパティの Caption をクリックして、その右欄に、 ボタンに表示する文字(Calc BMIなど)を記入。

プロパティ - Comm	andButton1 🛛 🔀	🔠 BMIxIs - UserForm1 (UserForm)
CommandButton	1 CommandButton 🛛 🚽	-
全体 項目別		UserForm1
(オブジェクト名)	CommandButton1	
Accelerator AutoSize BackColor	False	Body Mass Index
BackStyle Cancel	1 – fmBackStyleOpaque False	Height (cm) =
Caption	Calc BMI	
Control Lip Text Default	False	Weight (kg) =
Enabled	Times New Roman	
ForeColor	&H80000012&	
Height	36	Uaic Bivii 🔶
HelpContextID	0	
Lett	D	

Command Button 1 の下に、BMI の 計算結果を 表示するための テキストボックス (TextBox 3)と、 ラベル (Label 4) (Caption を BMI = にする)を配置。

クロバティー Lab	el4 🛛 🗶						
Label4 Label	Label4 Label 💽						
全体 項目別							
はブジェクト名)	Label4						
Accelerator							
AutoSize	False						
BackColor	&H00E0E0E0&						
BackStyle	1 – fmBackStyleOpaque						
BorderColor	&H8000006&						
BorderStyle	0 – fmBorderStyleNone						
Caption	BMI =						
Control Tip							
Enabled	True						
Font	Times New Roman						
ForeColor	&H80000012&						
Height	36						
HelpContextID	0						
Left	6						
MouseIcon	はい						
MousePointer	0 - fmMousePointerDefault						
Picture	はい						
Disture Position	7 - fmPicturePosition@bousCo						



Command Button 1 をダブルクリックする。 プログラムを記入するウィンドウが出現する。



BMI の計算式をプログラムで記述する。 TextBox1の数字を変数hに代入する式は、 h = TextBox1.text TextBox3 に BMI の数字を代入する式は、 TextBox3.text = BMI



プログラムの実行。三角印のボタンをクリックして、 身長、体重を入力し、Calc BMI ボタンをクリック。 プログラムの終了は、四角印のボタンをクリック。

🚰 Microsoft Visual Basic - BMLxIs									
◎ ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(0) <u>書式(0) デバッ</u> グ(D) 実行(R) ツール(T) アドイン(A) ウィンドウ(W) ヘルプ(<u>H</u>)								
🛛 🛅 🕶 🔚 🙈 🛤 ၊ 🕫 🕞 🔢 💼 🗳 🐼 😭 😤 🛠 😰 13 行, 1 桁									
Jロジェクト - VBAProject									
I I I III III III IIII IIII IIIIIIIIII									
The Form1	📮 BMLxls - UserForm1 (コード)								
🗄 🕉 VBAProject (BMLxls)									
🖻 🚔 Microsoft Excel Objects									
Sheet1 (Sheet1) BOOLY IVIASS INDEX	Private Sub CommandButton1 Click() 🗔								
■ Sheet2 (Sheet2)	_ *								
Brief Sheet3 (Sheet3)	la - Taut Daul Taut								
	n = lextbox1.lext								
Weight (kg) =	w = TextBox2 Text								
プロパティー CommandButton1 🛛 🗧 🌄	" TOACBOAL. TOAC								
CommandButton1 CommandButton									
	BMI = w / (h / 100) / (h / 100)								
(オブジェクト名) CommandButton1									
Accelerator	$T_{ovt} R_{ov2} T_{ovt} = RMI$								
AutoSize False : BMI = :	Textbuxs. Text - DMT								
BackGolor & &H800000F&									
Cancel False	End Sub								
Caption Calc BMI									
ControlTipText									
Default False									
Enabled True									
Font Times New Koman									
Height 36									
HelpContextID 0									

プログラムの保存。Visual Basic のウィンドウ または Excel のウィンドウの ファイル ー 名前を付けて保存 を選択。 エクセル形式で(拡張子が .xls のファイル名で) BMI.xls などの名前にして保存してください。



終了ボタンの追加。Command Button2をフォームに追加し、 プロパティのCaption を End などと記入。 Command Button2 ダブルクリックして、プログラムに End を記入。プログラムを実行して終了ボタンが作動することを 確認して下さい。



BMIの判定結果を表示するプログラムを追加。 フォームにテキストボックス(TextBox4)を追加。

🚰 Microsoft Visual Basic	- BMLxIs				
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入① 書式((Q) デバッグ(D) 実行(R)	ッール(T) アドイン(<u>A</u>)	ウィンドウ🖤	ヘルプ(円)
i 🛛 🛅 • 🔚 🕺 X 🖻 💼 d	Ma ►> C4 ►	II - M & 2 3	🛠 😰	-10	Ļ
ブロジェクト - VBAProject			+0+	•	
	-	🗃 BMIxls - UserForm	m1 (UserForm)		
AcrobatPDFMaker (PI VBAProject (BMLxIs) Microsoft Excel Object Microsoft Excel Object Microsoft Excel Object Sheet1 (Sheet1) Sheet2 (Sheet2) Sheet3 (Sheet3) ThisWorkbook フォーム UserForm1	DFMaker.xla) ets	UserForm1 Body N Height (Weight (/Iass Inde cm) = kg) =	X	ッールボックス
プロパティー TextBox4	×	() eight (ng)		
TextBox4 TextBox		:		F I	
全体項目別(オブジェクト名)TextBox4AutoSizeFalse		Ca	lc BMI		
AutoTab False AutoWordSelect True BackColor & &H80000 BackStyle 1 - fmBack	0005& ▼ StyleOpaqu				
BorderStyle 0 - fmBorde ControlSource ControlTipText	erStyleNone		™		
DragBehavior U - fmDrag Enabled True	EenaviorDit =		Ena	Ē	

Calc BMI ボタンをダブルクリックして、 If 文による判定式を記述して、プログラムを実行。



プログラムの実行。まず、プロジェクトでフォーム UserForm1 を左クリックし、作成したUserForm1を左クリックしてから 三角印のボタンをクリックして、身長、体重を入力。

着 Microsoft Visu	ial Basic - BMLxIs								
ファイル(E) 編集(E	〕 表示(⊻) 挿入(⊉) 書詞	€(<u>0 √</u> シッグ(<u>0</u>) 実行(R) ツール(T) アドイン(A) ウィンドウ(W)) A,	ルブ(円)					
🛛 🛅 • 📰 🐰	鳌 镭 ▾ 🖶 👗 ங 🛍 🚧 🗠 ⇔ 🔽 🚺 🔳 🕍 😻 督 😤 📿 🔯 13 行. 1 桁								
プロジェクト - <mark>/</mark> BAPro	ject 🗙		_						
	•	🖼 BMIxls - UserForm1 (UserForm)							
🗄 😻 AcrobatPDF	Maker (PDFMaker.xla)	UserForm1 X	*	BMLxls - UserForm1 (コード)					
🗄 😻 VBAProject	(BMLxIs)		C	ommandButton1	-				
🖻 🍧 Microsoft	Excel Objects	Dady Mass Inday	<u> </u>		~ -				
Bheet1	(Sheet1)	Douy wiass maex		Private Sub CommandButton1_Click	() 🔳				
Bheet2	(Sheet2)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·							
B Theeta	(Sheet3)	Height (cm) =		h - Taut Raut Taut					
	JIKUUUK			n = TextboxT. Text					
	orm1								
		Weight (kg) =		w = TextBoy2 Text					
プロパティー Comm	andButton1 🛛 🛛 🛛			W - TEXLDUXZ. TEXL					
CommandButton	🛛 CommandButton 🛛 🖃								
全体 項目別				BM = w / (h / 100) / (h / 100)					
(オブジェクトタ)	CommandButton1								
Accelerator	CommandBattorn								
AutoSize	False	$\mathbf{BMI} =$		IEXTBOX3. IEXT = BMI					
BackColor	🗌 &H8000000F&								
BackStyle	1 - fmBackStyleOpaque	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		End Sub					
Cancel	False			End Sub					
Caption	Calc BMI								
Default	Ealaa								
Enabled	True								
Font	Times New Roman	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •							
ForeColor	■ &H80000012&								
Height	36		Ξ) Č				
HelpContextID	0								

UserForm1をクリックしてから(フォーカスをあてる、という)(フォー ムの枠を濃い青にしてから)三角のプログラム実行ボタンを押す。 モジュールコードのウィンドウ枠が濃い青の状態で実行ボタンを 押すと calcBMI だけが単独で実行されるのでエラーが生じる。

着 Microsoft Visual Basic - BMLx	ls			
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(■ 10 ・ 日 よ 階 配 ぬ い	D 書式(C) デバッグ(D) 実行(R) ツール(T) アドイン(A) ウィ ~	ンドウ(₩) ヘルプ(<u>H</u> ・) • • • • • • • •
	🖽 BMLxls - UserForm1 (UserForm)	3		g BMIxis - UserForm1 (
Acrobat PDE Maker (PDE Make				CommandButton1
WBAProject (BMLxIs) Microsoft Excel Objects Sheet1 (Sheet1) Sheet2 (Sheet2)	Body Mass Index			Private Sub
Sheet3 (Sheet3)				
- ※] ThisWorkbook	Height (cm) –		BMLxis -	Module1 (] ~ [*)
⊡ a 77 - 12			General)	▼ calcE
□···	Weight (kg) =		Sub o	calcBMI()
プロパティ - UserForm1 🗙	Calc BMI		h = l w = l	JserForm1!Text JserForm1!Text
全体 項目別 付ブジェクト名 User Form1 へ BackColor 日 &H00E0	BMI =		BMI =	= w / (h / 100)
BorderColor & &H8000 BorderStyle 0 - fmBorc			Userf	Form1!TextBox3
Caption UserForm1 Cycle 0 - fmCycl DrawBuffer 32000 Enabled True	End		End S	Sub

UserForm1 の Caption を Body Mass Index にしたほうが 体裁が良いので、変更する。



calcBMI 関数の End Subの下に一行あけて Sub judgeBMIと記入して、Enter キーを押す。

自動的に()と End Sub が記述され、関数の体裁になり、 モジュールの見出しが、General judgeBMIとなる。

共有関数 judgeBMI 関数 の作成を宣言したことになる。 この中に、BMI を判定するコードを 移動させる。

Ş	BMLxls - Module1 (3~F)		2	3MLxls - Module1 (3~6)	
(General) 🔽 calcBMI	•			
	Sub calcBMI()	-	Γ α	ieneral)judgeBMI	<u> </u>
	h = UserForm1!TextBox1.Text w = UserForm1!TextBox2.Text			Sub judgeBMI()	•
	BMI = w / (h / 100) / (h / 100)			End Sub	
	UserForm1!TextBox3.Text = Format(BMI, "##.##	")			
	End Sub				
	Sub judgeBMI	-			
=		▶ //			

CommandButton1の、BMIを判定するコードをカットして、 かわりに judgeBMIと書く。 モジュールコードの中で、カットしたコードをペーストする。 モジュールコードの中のTextBoxをUserForm1!TextBox に書き換える。 プログラムの実行結果が変わらないことを確認して下さい。

共有変数 で宣言された BMI の値が、関数 calcBMI から judgeBMI に 渡されていることを理解してください。

4	BMLxls - Module1 (]- 5)		5	BMLxIs - UserFo	orm1 (1	~ 5)	(_ 🗆 🗙
((General) 💽 judgeBMI	•	C	ommandButton1		Click		•
_	Sub judgeBMI()	^		Private	Sub	CommandBut	ton1_Cli	ck () 🗖
	If BMI < 18.5 Then judge = "やせすぎ"			calcBMI				
	If BMI >= 18.5 And BMI < 25 Then judge	=		judgeBMI				
	f BM >= 25 And BM < 30 Then judge =	"		End Sub				
	If BMI > 30 Then judge = ″超肥満″							
	UserForm1!TextBox4.Text = judge							
	End Sub	•						•
=		▶ //	Ξ.	≣◀				• • //

肥満度を計算、表示する fatness関数 を追加してください。 フォームに肥満度を表示するTextBox5 を追加して配置してください。 Format() 関数は、数字を文字(string)に変換して、 表示桁数を指定する関数。ここでは小数点以下2桁までの表示を指定。 文字と数字はプラス記号で繋げられないため、使用している。

ų	BMLxls -	Module1 (] – ⁵)	,	BMIxls - UserFo	rm1 (]~片)	
((General)	▼ fatness ▼	Γ	CommandButton1	• Click	•
	Sub	fatness()		Private	Sub CommandButton	1_Click() -
	fat	= BMI / 22 * 100 - 100		calcBMI		
	s =	"肥満度 " + Format(fat, "##.##") + " %"		judgeBMI		
	User	Form1!TextBox5.Text = s		fatness		
	End	Sub	·	End Sub		•
Ξ	∃≀		/ =	≣◀		•

体重を判定する judge_weight 関数 を追加してください。 フォームに 標準体重、判定を表示する TextBox6 と TextBox7 を 追加して配置してください。

```
(General)

    judge weight

                                                                            BMLxls - UserForm1 (1-F)
 Sub judge_weight()
                                                                           CommandButton1
                                                                            Private Sub Comm
 stdw = (h - 100) * 0.9
                                                                             calcBMI
 If h > 150 And h \leq 160 Then
                                                                             judgeBMI
   stdw = 50 + (h - 150) * 0.4
 End If
                                                                             fatness
 If h \le 150 Then stdw = h - 100
                                                                             judge_weight
 caution = "Should be " + Format(stdw, "##. ##") + " kg"
                                                                             End Sub
 UserForm1!TextBox6.Text = caution
                                                                           dw = w - stdw
 If dw > 0 Then advise = "Decrease " + Format(dw, "##. ##") + " kg"
 If dw <= 0 Then advise = "Increase " + Format(-dw, "##.##") + "kg"
UserForm1!TextBox7.Text = advise
```

End Sub

BMIとは世界共通の肥満度の指標。 BMI=体重(kg)/(身長(m)x身長(m))。 標準は22です。

これが+20%, つまり26.4以上なら立派な「肥満」といえます。

(例)身長170cm,体重70kgなら
BMI=70÷1.7÷1.7で約24.2。
標準(最も理想的なBMI値)が22ですから、
+10%の肥満といえます。

標準(理想)体重の計算方法は? 上記のBMIから算出するのが世界的な標準です。 これは標準体重=22x身長(m)x身長(m)で計算できます。 (例)身長170cmなら22x1.7x1.7=約63.6kgが標準体重です。

その他の計算方法で最も日本で使われているのが「ブローカの桂変法」という方法です。

これは 標準体重=(身長(cm)-100)x0.9で計算できます。 (例)身長170cmなら(170-100)x0.9=63kgが標準体重です。 ただ、この方法は身長が低い場合に低値になりすぎるため、 身長150cm以下では0.9倍せずに(身長-100)とします。 身長150-160cmの場合は50-54kgの間にあればよいとされ ています

[正確には50+(身長-150)x0.4で計算されます]。